

達成度(評価)
 A:十分達成できている C:やや不十分である
 B:おおむね達成できている D:不十分である

【高等学校用】

令和7年度学校評価計画

学校名	佐賀県立鹿島高等学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<p>【学力の向上】については、概ね指標を達成することができた。社会に貢献する志については十分達成してきているので、令和7年度から本格的に始まる普通科コース別の大学入試対応策と難関大学を含む受験に対応する学力をつけることを強化していきたい。</p> <p>【心の教育】については、「豊かな教育活動の実践」について計画した取り組みは予定通り実施し、「人間的成長」「自己有用感」についての指標を概ね達成できた。「いじめへの対応」についても概ねできていると思われるので、今後も予防的対策について継続的に取り組んでいく。</p> <p>【健康・体づくり】については、望ましい食習慣についての指標はわずかに達しなかったが、生徒への意識づけはできている。また、「交通安全」については生徒の意識向上はできているが、自転車通学生のヘルメット着用率が低迷しているため、安全・命を守る行動につなげるため、引き続き着用率向上につながる取り組みを推進していきたい。</p> <p>【業務改善・教職員の働き方改革の推進】については、成果指標を達成できなかった。「年休取得」については、学校閉庁日等を設け、取得しやすい雰囲気醸成できているので、今まで以上に職員の意識改革に努めたい。</p> <p>【唯一無二の誇り高き学校づくり】については、「自分の学校を中学生に勧めることができる。」については、生徒、教職員ともに高い数値を維持した。旭ヶ岡キャリア塾やキャリアラボ等は本校の魅力の一つとなっており、普通科コース制や部活動、ボランティア活動で輝く生徒など、学校の魅力を伝え、志願者の増加に繋げていく。</p>
------------------	--

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	<p>○スクール・ミッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧制鹿島中学校以来の伝統と新しい取組を融合させ、探求(探究)活動や普通科改革を推進するとともに、地域の力の積極的な活用を通して地域の期待に応え続ける学校をめざす。 ・三つの学科(普通科、商業科、食品調理科)の相互作用を通して、社会を支え未来を切り拓く有為な人材を育成する。 <p>○学校教育目標</p> <p>他者を尊重し、誠実で豊かな心と大きな志をもって逞しく未来を切り拓く力を育てる。</p>
----------------------------	---

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	4 本年度 の重点目標
	<p>①わかること、できることをたくさん増やせるよう、学習する意欲のある人。</p> <p>②大きな目標をもって頑張ることができる人。</p> <p>③多くの友人たちと、学校行事、部活動などに真面目に取り組もうとする人。</p>	<p>●カリキュラム・ポリシー (教育課程編成及び実施に関する方針)</p> <p>【普通科】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①大学進学を目指し、確かな学力を身につけさせる。 ②1年次は共通の学びで教科・科目の基礎を固める。 ③2年次からは各コースで特色のある学びを始める。 <文理探求進学コース(文系・理系)> ④英語・数学に重点を置いて、大学進学のための学力や幅広い教養を身につけさせる。 ⑤未来探求進学コース(文系)> ⑥学校設定教科で、大学入試だけでなく大学での研究や企業等においても求められる力(MIRAIの力)を身につけさせる。 *MIRAIの力=「M」見つける力 「I」イメージする力 「R」理解する力 「A」表す力 「I」活かす力 <p>【商業科】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①共通の学びで知識・教養を身につけさせる。 ②専門科目でプロとしての力を磨く。 ③就職、進学に向けて、丁寧に学びを積み重ねる。 ④商業やビジネスに関わる専門知識や技術を習得し、様々な資格を取得させる。 ⑤課題研究や総合実践で、社会に役立つ実践的スキルを身につけさせる。 <p>【食品調理科】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①共通の学びで知識・教養を身につけさせる。 ②専門科目でプロとしての力を磨く。 ③就職、進学に向けて、丁寧に学びを積み重ねる。 ④プロの調理師から和洋中の調理技術と知識を身につけさせる。 ⑤課題研究や専門教科の授業で学びを深め、調理師免許を取得させる。 	<p>●グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①【大志】社会に貢献する高い志をもった生徒を育てる。 ②【探求】常に問い続け、答えを探し求める生徒を育てる。 ③【至誠】誠実に物事に取り組み、真心で人と接する生徒を育てる。 	

5 重点取組内容・成果指標				主な担当者
(1) 共通評価項目				
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
●学力の向上	授業改善と指導力向上	○授業の進度や内容が適切であると思う生徒を85%以上、授業をとらして学力が向上したと思う生徒を85%以上、主体的に学ぶことができていると思う生徒を90%以上にする。 ○新学習指導要領の実施の4年目に伴い、指導計画や指導方法の改善を推進し、よりよい評価方法の検討を継続する。 ○ICTを活用した学習支援を実施する。	・各教科1名以上の公開授業を実施し、事後に意見交換等を行う。 ・授業評価アンケートを年2回(7月、12月)実施し、生徒の学習状況を把握し、授業改善を行う。 ・教科会議、教務委員会を定期的に行い、教育課程や指導・評価方法、学校設定教科等の研究を進める。 ・欠席等の生徒がいる場合には、オンライン授業を実施し、自宅学習の支援を行う。	教務
	◎自己の能力を高め、社会に貢献しようとする大きな志を持つ生徒の育成 ○進路指導の充実と生徒の進路保障	○進路実現を通して自らが社会に貢献したいと考える生徒を90%以上、3年生の進路指導に対する満足度を90%以上にする。 ○全国模試受験者の平均偏差値50以上の科目数を昨年度以上にする。 ○国公立大学志願者の合格を65名以上にする。 ○4年制大学における学校推薦型選抜・総合型選抜入試の合格者数を昨年度以上にする。 ○就職希望者の就職率を100%に、県内就職率を75%以上にする。	・進路講演会を各学年1回(3年生6月、2年生2月、1年生12月)、進路ガイダンスを3回(6月、7月、3月)実施する。 ・進路講演会等でこれからの未来社会と社会貢献の視点から、各自の進路希望を考える機会を設定する。 ・進路検討会を3年生4回(4月、6月、11月、1月)、1・2年生2回(5月、12月)実施して生徒の志望状況や課題を共有し、面談を通して適切な助言・支援を行うとともに、各学年における各教科間の指導内容や重点目標等を共有し、授業の質の向上に努める。	進路指導
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○誠実で豊かな心を身につけ、「人間的に成長した」と思う生徒を95%以上、「自己有用感が高い」と思う生徒を85%以上にする。 ○「高校生ティーチャー」などボランティア活動に参加した生徒をのべ500名以上にする。	・人権・同和教育について、生徒へのホームルーム活動、講演会を実施し、職員に対しても研修を行う。 ・ボランティア活動に関する情報をクラスを通じて提供し、意義を考えさせ、参加を促す。	企画研修
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめについて相談しやすい雰囲気があると思う生徒85%以上にする。 ○いじめに対する組織的対応ができていると思う教員85%以上にする。	・いじめアンケートを3回(6月、9月、1月)実施する。 ・いじめ覚知・認知の対応マニュアルの見直しを行う。 ・いじめの対応についての職員研修を1回以上行う。 ・情報モラルに関する指導を行う。	生徒指導
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒を90%以上にする。	・望ましい食習慣や食の自己管理に関する情報を保健だより等で3回以上提供する。 ・食習慣に関するアンケートを2回実施し、結果をもとに必要な指導を実施する。	保健指導
	●「安全に関する資質・能力の育成」	○主体的な取組をとらして自転車通学生のヘルメット着用率を昨年度(6.8%)以上にする。 ○交通安全に気をつけて登下校している生徒を90%以上にする。	・生徒会と協力して、ヘルメット着用に向けた取組や交通安全の意識向上の活動を行う。 ・ヘルメットの着用で安全に至った事例を含めた情報提供を行う。 ・高校生が関わる交通事故について情報を提供し、注意喚起を行う。	生徒指導
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○年休取得14日以上を職員を85%以上にする。	・各人が時間外在校等時間の目標を設定し、それを超えないようタイムマネジメントを行う。 ・時間外在校等時間が上限を超えた職員には、管理職による面談等を行う。 ・年次休暇取得状況を毎月集約し、全体の取得状況を報告するとともに、計画的な取得を呼びかける。	管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答する教員を85%以上にする。	・職員研修を年1回実施する。 ・特別支援教育委員会を年2回実施し、関係者間での情報共有を行う。	特別支援
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者
評価項目	重点取組内容	・	具体的取組	
★SAGA唯一無二の学校魅力化促進	○教育課程内・外の教育活動の充実 ○カリキュラムの磨き上げ ○広報活動の充実	★「自分の学校を中学生に勧めることができる」と回答する生徒の割合を80%以上、職員の割合を95%以上にする。 ★普通科新コースにおける授業評価アンケートで、「授業・学習」に満足している生徒の割合を85%以上にする。 ○高校入試及び進路希望調査における志願倍率を1.01倍以上にする。	・学校運営協議会を年3回開催し、効果的な運営に努め、地域、学校の連携・協働をさらに進める。 ・旭ヶ岡キャリア塾やキャリアラボの取組を充実させ、事前アンケートの実施等を行い、より生徒のニーズに合ったキャリア教育支援を提供する。 ・高校生サポーターや高校生ティーチャー等で、地域連携、地域貢献を図る。 ・校内に魅力化推進特別チームを設置し、効果的かつ効率的な広報のあり方等を検討するなど、全職員が共通認識を持って志願者増対策に取り組む。 ・魅力化推進特別チームを週に1回開催し、教員間の連携をとりながら、学校魅力化のためのアイデアの創出の場とし、具体的に実行していく。 ・普通科新コースの担当者会議を随時開催し、授業内容や今後の指導計画について協議・共有を図る。 ・「学校だより」を有効活用し、地域の小・中学生、保護者や地域の方に学校の様子や取組に対する理解を深める。 ・ホームページの内容を充実させ、週に1回更新する。 ・学校パンフレット、学校説明会、体験入学、ハイスクール・ウェビナーの内容を充実させる。 ・学校紹介や説明の際に、生徒が活躍する場面を多く作る。	